

群馬県立太田工業高等学校 学校評価一覧表 (令和6年度版)

(別紙様式)

羅針盤			方 策	点検・評価	達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合	
I 特色ある学校づくり	1 特色ある教育活動を行っていますか。	(1) 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は、90%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事や生徒会活動を通して、充実感や達成感を体験させる。</li> <li>友人関係や教師との信頼関係をつくり、好ましい人間関係を育成する。</li> </ul>	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の愛校心は高いように感じられる。行事への参加や取り組み方もコロナ前と比較し、積極的に参画し、生徒同士の繋がりがより強く見られる場面が多くなったように感じられる。一方で課題研究の取り組みや資格試験の対策など、与えられた環境での活動に終始し、予想される成果以上へのチャレンジが少ない。次年度は企業との連携や大学見学等の進路指導と絡めて、生徒の視野を広げる時間を設け、「太工生プライド」を育てられる環境を整備し、生徒が主体的に学ぶ姿勢を醸成する指導を行いたい。</li> <li>課題研究については、今年度から3観点を意識した取り組みが始まった。年度当初に各科で足並みを揃え、今までの作業中心の取り組みだけでなく、行った作業の探究活動やレポート等の作成も取り入れた。しかし、実際の評価では作品制作が中心にはなっていない。生徒自身が何を考え、どのように思考を深めて進めたか、評価する手法はまだ検討の余地がある。工業科全体で情報共有や方策の検討をしながら改善を進めていきたい。</li> <li>生徒は各科の特徴や自身の進路を見据えて資格取得に積極的に取り組むことができた。また、生徒が主体的に学べるような資格指導方法について検討するとともに、指導する資格について精選も行った。一方、基礎的な内容の資格指導は高い合格率を維持出来たが、レベルが高い国家資格については、年々指導が難しくなっている。指導方法の改善を図っていきたい。</li> </ul>
		(2) 学校行事に主体的に取り組んだと自己評価している生徒が85%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事に積極的に参加し、クラス・学年への帰属意識を高める。</li> <li>行事内容の工夫や参加等を通じて、コミュニケーション能力の向上を図る。</li> <li>学校行事や生徒会活動を通して、充実感や達成感を養う。</li> </ul>	A	A	A	
		(3) 課題研究や専門科目に魅力を感じ満足している生徒が85%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>時代のニーズをとらえ、各科の特性を重視し、専門科目の充実を目指す。</li> <li>課題研究では、専門的な知識と技術の深化を図り、自発的・創造的な学習態度を育てる。また、プレゼンテーション能力を高め、伝えたいことを明確に表現できる能力を育てる。</li> <li>ICTを効果的に活用し学習に対するイメージを膨らませることができるよう工夫をする。</li> </ul>	A	A	A	
		(4) 資格取得に積極的に取り組み、その指導も充実していると感じている生徒が85%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各科の特徴や進路を見据えて資格取得の重要性を認識させる。</li> <li>職員が協力して効果的に指導し、合格率を高める。</li> </ul>	A	A	A	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	(5) 朝学習に、積極的に取り組めたと感じている生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体で「朝学習」に取り組み、基礎学力の向上と学習習慣の確立に努める。</li> <li>学習成果の振り返り指導を組織的に行うことにより基礎力の定着を図る。</li> </ul>	D	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習意欲の低い生徒に対しては、よく観察して声掛けするなど、こまめな対応をお願いしたい。</li> <li>基礎学力の底上げは、学習端末の学習ソフトを利用するなどの工夫をして、教員の負担が増えない範囲で取り組んでもらいたい。</li> <li>学習端末を利用すれば必ず学習効果が上がるとは限らない。様々な手法を適材適所で組み合わせて授業展開してもらいたい。</li> <li>YouTubeなどの無償の動画コンテンツにも優れた内容のものがある。上手に活用して、生徒の興味・関心を喚起してもらいたい。</li> <li>授業では、デジタル機器の活用と従来のアナログ的な手法のそれぞれの長所を生かし、ハイブリッドで展開し、効果を上げてもらいたい。</li> </ul>
		(6) 興味・関心を引き出し、授業がわかりやすいと感じている生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業展開や生徒の実態に応じて、グループワークやプリント教材、ICT機器を効果的に活用する。</li> <li>わかりやすい授業や双方向の授業を展開する工夫・改善に努め、学習意欲を高める。</li> <li>生徒の興味や関心等を学習活動に取り入れ、コミュニケーション能力を高める。</li> </ul>	C	A	B	
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	(7) 学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>シラバスを活用し、学習のねらいや授業の進度、評価の観点を事前に生徒に伝え、学習意欲を引き出す。</li> <li>授業アンケートを活用し、生徒の実態にあわせた授業を展開する。</li> </ul>	C	A	B	
		(8) ものづくりや専門技術への興味・関心を高めさせ授業・実習に満足している生徒が85%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>産学連携による労働基準監督署・企業との連携を強める。特に1学年の安全教育を実施し、工業で学ぶ上での安全意識・知識を早期の段階で定着させる。</li> <li>専門学科講師派遣事業などを通して、ものづくりの興味を深める。</li> <li>企業と連携を図りインターンシップを実施し、高い専門知識と職業観を醸成する。</li> </ul>	A	A	A	
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	(9) 基本的な生活習慣が身に付いている(あいさつ・遅刻・提出期限など)と思う生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣の定着が学校生活の充実に繋がることを、生活指導を中心に機会を設け、指導する。</li> <li>毎日、授業の開始・終了時や通路・廊下等で生徒に積極的に声をかけ、あいさつの習慣化を図る。</li> </ul>	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り込み詐欺など、大人でも騙されてしまう事件が多発し、一向に無くならない。子供ではなおさら判断が難しいので、繰り返し指導して、粘り強く注意してもらいたい。</li> <li>詐欺事件や闇バイトなど、子供自身が自分で判断できるようになるか心配な面もある。引き続き高校でも学ぶ機会を設け、指導してもらいたい。</li> <li>金融教育や年金セミナー、離職防止セミナーなど、外部講師の活用も行いながら学ぶ機会を設けてもらいたい。</li> <li>学校での指導も大切だが、家庭での指導がさらに重要である。学校と家庭が協力して指導してもらいたい。</li> </ul>
		(10) 学校は安全な環境づくりや校内美化に心掛けていると感じている生徒・保護者が70%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の清掃活動を積極的にに行える体制をつくる。</li> <li>定期的な安全点検チェック表を確認し、改善を目指す。</li> <li>危険を伴う場面や場所等を意識して安全に配慮して活動を行なう。</li> </ul>	A	A	A	
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的にしていますか。	(11) 学校はいじめ防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていると感じている生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめの未然防止を目指し、SCや特別支援コーディネーター、教育相談を活用し組織的に取り組む。</li> <li>普段から生徒の表情、言動、態度に気を配る。また「生活振り返りアンケート」・「SOSシート」を計6回実施し、内容を精査する。</li> <li>生徒、教員の人権意識を高め、いじめを見逃さない許さない雰囲気を作る。いじめの対応では組織的に迅速な対応を図る。</li> </ul>	A	A	A	
		(12) 学校は生徒がSNSやインターネットの危険性や正しい利用方法について学ぶ機会を作っていると感じている生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNSに頼らない人間関係づくりを目指し、生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。</li> <li>スマホルールづくりを通してSNSやインターネットの危険性を理解させ、正しい利用方法を学ばせるなどICTリテラシーの向上を図る。</li> </ul>	A	A	A	
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	(13) 1日平均の遅刻者数は全校生徒の0.8%以下である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭との連絡を密にするとともに、教育相談や健康相談を充実させる。</li> <li>10分前登校をすすめ、余裕ある通学をさせる。</li> </ul>	D	B	C	
		(14) 生徒の健康面に配慮した指導を評価している生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の健康面に配慮し保健便り等を定期的に発行して健康管理の啓発に努める。</li> <li>新型コロナウイルスやインフルエンザ、熱中症対策等、予防や事後対応を迅速に行なう。</li> </ul>	A	A	A	
(15) 部活動が充実していると評価している生徒が80%以上である。		<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動オリエンテーション、学年集会等を通じ加入を呼びかける。</li> </ul>	B	A	B		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	(16) 時期や内容に則した進路情報を提供していると感じる生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「進路の手引き」を活用し、進路のルールや手続きについての情報を周知する。</li> <li>「進路たより」を定期的に配布し、進路に関する情報を生徒・保護者に提供する。</li> <li>学年別懇談会等において、外部講師による進路講話等を実施し、保護者の意識向上を図る。</li> </ul>	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒は、各企業の業務内容や製品情報を調べた上でインターンシップ先を選択することができた。選択したインターンシップ先での経験は、生徒の職業観・勤労観の育成につながることであった。ただし、それらを授業等に活かし、さらなる進路実現に向けて働いているかは疑問点が残る。次年度は、各学年において大学見学や企業見学を実施し、より計画的に進路指導が行えるようにしたい。</li> <li>1年生は4月に「進路の手引き」を配布。3年生は1学期LHR等で進路進め方を説明の際に、1・2年生は3月の進路ガイダンスでの活用を予定している。</li> <li>2月に1年生は進路適性テストを、2年生はSP1基礎テストを実施する予定である。</li> <li>LHR等でキャリアパスポート・ノートを活用している。課題や改善点について聞き取りを行い、改善に取り組む。</li> </ul>
		(17) 3年間計画立ててキャリア教育の推進のため、進路行事等が充実していると感じている生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路見学会(大学、企業等)やガイダンス(進学・就職説明会)を実施する。</li> <li>キャリア教育について考える機会として、キャリアパスポートとキャリアノートを朝学の時間で定期的に取り組む。</li> </ul>	A	A	A	
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	(18) 自分の進路適性を考え進路実現に向け積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「進路たより」を活用して、最新の進路情報を提示する。進学希望生徒には進学費用なども情報提供して理解を促す。</li> <li>進路適性の理解や職業観・勤労観を育成に役立つ職場体験(インターンシップ)への協力を企業に働きかける。</li> </ul>	B	A	B	
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	(19) 学校の教育活動を理解してもらうために、PTA総会や学年別懇談会の参加率は、60%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>懇談会の内容を工夫して、参加率を向上させる。</li> <li>欠席者に配布物を配り、欠席者対象の2次懇談会を実施して、本校の教育活動の周知を図る。</li> </ul>	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA活動を工夫し、学校と家庭がより一層連携できるようにしたい。</li> <li>地元への広報活動として、Webページなどのデジタル媒体以外の活用も検討してもらいたい。</li> <li>インスタグラムでは、主に学校行事や授業風景を掲載している。工業高校ならではの実習風景などの掲載を、さらに増やせば効果的に広報活動ができるのではないかと。</li> </ul>
		(20) Webページを月5回以上更新して学校は広報活動に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の日常の活動を保護者や中学生向けに編集し、随時発信する。</li> <li>学校の諸行事を迅速にアップし、写真や、意見等を盛り込み興味関心が高まるように内容を工夫する。</li> </ul>	A	A	A	
		(21) 学年通信や学級通信を年3回以上発行している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年主任を中心に学年間が協力して発行する。</li> </ul>	A	A	A	
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	(22) ICTを活用した授業に、生徒の80%以上が満足している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>パワーポイントや動画等を活用し、わかりやすい授業を行う。</li> <li>クラスルームやフォーラムを活用し、生徒が主体的に取り組むよう工夫する。</li> </ul>	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年では、保護者の理解と協力が必要不可欠です。そのためにも学級から定期的にクラス通信などGSNメールなど活用し迅速な対応を心掛け、次年度も積極的に活用していきたいです。また、アンケートやPTA総会の出席、進路では求人票(HANDY進路指導室など)集計作業が迅速且つ的確に行われる点も重要と考えています。</li> <li>授業内でICTを利用した教員が多く、クラスルームを使った課題の提出等、授業改善に役立っている。生徒も協働作業など授業の内容に積極的に自信のパソコンを使いこなしている。一部、生徒にソフトウエアに詳しい生徒もおり、教員が知識不足という場面も希にある。コンピュータ係を中心に講習会を行い、ICTの活用を学ぶ機会を設けていきたい。</li> </ul>
		(23) 学習端末を授業時間の30%以上利用している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導内容により積極的に学習端末を活用している。</li> <li>職員同士で活用方法に関して情報を共有したり研修を行い資質向上に努める。</li> </ul>	A	A	A	
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	(24) ICTを活用した通知に、生徒・保護者の80%以上が満足している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>GSNやクラスルームを活用し、保護者にも積極的に発信し、教育活動の理解と関心をうながす。</li> </ul>	A	A	A	
		(25) オンラインによるアンケートを5回以上活用している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンラインによるアンケート調査により迅速で的確なアンケートを積極的にを行い、生徒の実態把握に努める。</li> </ul>	A	A	A	